

# ブトン「善逝史」に引用せら

## れし法華經に就いて

矢 崎 正 見

(1)

この歴史の正しい名称は、*bde-bar-gsegs-pañiḥstan-pa hi esel-byed chos-kvi-hbyun-gnas gsun-rabrin-po ch ein-rnsod*。「善逝の教の明かとなる法の生起たる聖典の宝藏」と言ひ、その巻末に記さる、所に従へば、著者ブトン(Burton)三十三才のChau-pho-khyi-ro即ち壬戌の年(A.D. 1331)になしたものである。

本書の内容に関しては、東洋文庫所蔵の *bkra-sis lhun-po* (札什倫布)版に依れば、全冊二四四枚が三十九枚目の裏一行目(39)と記す、以下同じ)までを境として二部分に分ち得る。即ち巻首より391までの第一部に於ては始めに仏徳讃嘆の教頌を述べ(39)まで)、本文に入つては、①仏教修学の功德、特に教法の宣布が即ち仏陀を敬ふ所以なる事等を述べ(79)まで)

②次に仏教の文献に関し、經論一般に互り、特に *chos* (法)の概念規定を爲し(29)まで)

③第三に *bsTan-does* (教)に就いて、所証の法としての教の性格を分析し、總じて *gsun-rgyas-kvi-chos* (仏法)の目的とする處を如何に覺知すべきかを述べて第一部を終る。(39)まで)。斯くて、第一部はその内容が仏教の手引・概論の如き觀を呈して居るが、第二部に入つては所謂仏教史となり、その内容は

1 佛陀釈尊に関し、その一代の伝記

2 經典結集の歴史

3 龍樹・目稱・世親等の諸論師の伝記

4 パーニ等の文典家の略史

5 *Tho-ri-gnan-bstan* (ト、リニヤンツェシ王)を中心とする伝説時代より *so-ye-dre* (何提抄)に至るまでの西藏仏教史等を主なる項目とし、巻末に諸經論の索引を附し、最後に前記の如く「この書は *Khro-phu-pa* の *Bstan* により云々」(タシ版二四四)と記して文を結んで居るのである。

(1)

然らば、斯くの如き内容を有する善逝史中に法華經は如何に引用せられて居るかと言ふに、

A 「教法の性格」に関し特に教法宣布の方法に就いて、この部分の引用文が最も長く、